

誰もが人間として生きていくうえで 侵すことのできない当然の権利 これが『人権』です

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文をご紹介します。今月は3名の作品を紹介します。

「平和について考えたこと」

蘇陽小学校

6年 興梧 優斗さん



6年生になりました。学校で授業であるおじいさんの写真を見ました。その人の背中には、大きな火傷のあとが残っていました。先生は、「どうして写真に写っていると思いますか。」と聞かれました。でもぼくは、どうしてかわかりませんでした。後でわかったことは、ひびくして、背中に火傷をおったことがわかりました。その後、修学旅行に行きました。資料館には、とけた六本のピンがありました。原爆はすごい力があるし、とてつもなく熱いということが分りました。そして、先生が話してくださった谷口さんの写真もありました。「とって

も熱かったらろな。いたかったらろな。」と思いました。最後に、語りべのじょうだいさんにお話を聞きました。空しゅうけい報の音を聞くとき、空しゅうけいに行きたいへんだと思いました。そのころの食べ物もあつても少なく、食事は、いつも二つの時もあつたそうです。ぼくは、たまたますぐにおなかへつて仕事ができなくなると思いました。一番ひどいと思つたことは、アメリカは原爆のい力を知つていたのに日本に原爆を二回も落とすことでした。戦争をやめなかつた日本も悪いけど、たくさんの人をいっしゅうんにして殺してしまふ原爆はぜつたい使つてはいけないと思ひました。じょうだいさんは、日本が、また戦争をする国になつてしまふかもしれないとおつしやつていました。それを聞いて昔みたいになるのかなと思ひました。ぼくは、戦争をぜつたいして欲しくないです。修学旅行から帰つて、蘇陽にも戦争があつたのか調べました。ぼくは、ばあちゃんに聞き取りをしました。ぼくは、ばあちゃんに「戦争に行つた人おらん」と聞くと、ばあちゃんが、「ひ

いじいちゃんといじいちゃんの弟が戦争に行つたよ。ひじいちゃんは帰つてきたけどひじいちゃん弟は、帰つてこなかつた。それと家の近くに爆弾が落ちた。」と話してくれました。蘇陽にも爆弾が落とされたことを聞いてびっくりした話ばかりでした。もつとびつくりした話ばかり。おとしつたひじいちゃんおばあちゃん、山にしたい取りに行つた時、飛行機からきかんじゅうでねらわれたこと。とつぜんじゅうでつたれて、おそろしかつたと思ひます。もしも、ひいおばあちゃんがつたれて亡くなつていたら、ぼくも弟もこの世に生まれていません。ひいじいちゃんも生きてたくて戦争にいつたわけではないと思ひます。

「五・三集會に参加して」

矢部中学校

1年 上田 駿さん



ぼくは五・三集會に参加しました。五・三集會では、矢部小や中島小、潤徳小、蘇陽小、清和中などが集まりました。ぼくが、五・三集會に参加した理由は、差別や偏見のことをこの集會で考えて、自分がおかしいことをおかしと気づき、言つていけるようになりたいと思つたからです。参加してみても、一番に残つたのは、解放子ども會の劇で、題は「残す」です。解放子ども會の人たちが学習してきた白山のこと、ハンスのこと、内大臣のことを発表してくれました。白山だけが道や水道を良くしてもらえなかつたことに腹が立ちました。なんで白山だけが差別されないかと思ひました。役場は国から補助金がでたのに、それだまつて、白山の人たちがそれに気づき、役場の前にハンスを命がけでして、に、聞こつたしなかつたことにも、腹が立ちました。これは水俣でチソンの工場に水俣病の患者さんたちが訴えにハンスをしたことと同じだと思ひました。内大臣のことでは、内大臣の山に昔、枯れ葉剤がまかれようとしたと発表がありました。枯れ葉剤はベトナム戦争のときに使われ、森だけじゃなく人にも被害をあたらせたと思ひました。もし、その枯れ葉剤が内大臣の山にまかれていたら今の山都町はなかつたと思ひます。けど命がけで闘つてきた人たちがいるから今の山都町があると思ひます。それは水俣も同じです。水俣病と闘つてきた人たちがいて、訴えてきた人たちがいて、今の水俣があると思ひます。最後に劇を

山都町人権を考える 町民の集い

12月9日(水) 矢部保健福祉センター 千寿苑において山都町人権を考える町民の集いを開催しました。

本集いでは、町内小・中・高校生による人権作文の発表と毎日新聞記者の林田紀子さんによる「現代の部落差別」取材を通して見えてきたことと題した講演がありました。

子どもたちの人権作文は、人権学習や生活の中での気づき、人権に関する想いなどが発表されました。

講演では、京都府にある弥栄中学校における独自の人権教育に密着取材され、部落差別や家庭での問題等に向き合い成長していき子どもたちの姿とそれを支える先生の取り組みについてお話されました。



講演される林さん



人権作文発表の様子

「知るこころ」

矢部高等学校

1年 岡崎 真実さん



山都町の小学校・中学校の義務教育を受けた人たちは、教科学習とともに「人権」についても学んできました。

残念ながら、私たちの今の生活の中では、いじめや差別は無くなっていません。いじめや差別が起きるのはどうしてだろうと私はいつも考えていました。そして一つの答えにたどりつきました。それは「知る」ということです。

私最近気になつて居るのは、若い人たちとお年寄りの接し方です。ある本を読んでお年寄りにも、色んな人がいると改めて思ひました。お年寄りだから荷物を持つてあげなくてはならない。お年寄りだから何も出来なくても、仕方がない。そうではなく、〇〇さんが何ができて、何ができないかをきちんと知つて理解することが大事だと思ひます。いじめも差別も、相手に対して偏見を持ち、相手のことを知ろうともしないことが原因だと思ひます。人は誰でもそれぞれに良い面、悪い面があるのが当然で、お互いにどれだけ相手のことをわかり合っているかが大事だと思ひます。相手のことをわかつていれば、相手に対してイライラすることも減り、話をすればきっと仲良くなれると思ひます。若い人たちもお年寄りのことを知らないから関わりたくないと思つてしまふし、相手のことを知らずに、無意識のうちに勝手に決めつけ、嫌な人間になる人も少なくありません。

私の祖母は、よく周りの人から「怖くない」と言われます。確かに、怖い時もあります。普段はいつも笑つて居る私、私が農業の話をしてたら相槌を打ちながら聞いてくれます。それに、祖母が地域や地元の話を始めたら昔のおもしろい話をたくさんしてくれまふ。周りの人たちが知らないだけで、とても愉快な祖母だと思ひます。私は、学校のことをよく家庭で話します。家族の中で一番学校のことを話せる相手は祖母だと思ひます。

昔の楽しい話をしてくれることだと思ひます。私最近気になつて居るのは、若い人たちとお年寄りの接し方です。ある本を読んでお年寄りにも、色んな人がいると改めて思ひました。お年寄りだから荷物を持つてあげなくてはならない。お年寄りだから何も出来なくても、仕方がない。そうではなく、〇〇さんが何ができて、何ができないかをきちんと知つて理解することが大事だと思ひます。いじめも差別も、相手に対して偏見を持ち、相手のことを知ろうともしないことが原因だと思ひます。人は誰でもそれぞれに良い面、悪い面があるのが当然で、お互いにどれだけ相手のことをわかり合っているかが大事だと思ひます。相手のことをわかつていれば、相手に対してイライラすることも減り、話をすればきっと仲良くなれると思ひます。若い人たちもお年寄りのことを知らないから関わりたくないと思つてしまふし、相手のことを知らずに、無意識のうちに勝手に決めつけ、嫌な人間になる人も少なくありません。

私最近気になつて居るのは、若い人たちとお年寄りの接し方です。ある本を読んでお年寄りにも、色んな人がいると改めて思ひました。お年寄りだから荷物を持つてあげなくてはならない。お年寄りだから何も出来なくても、仕方がない。そうではなく、〇〇さんが何ができて、何ができないかをきちんと知つて理解することが大事だと思ひます。いじめも差別も、相手に対して偏見を持ち、相手のことを知ろうともしないことが原因だと思ひます。人は誰でもそれぞれに良い面、悪い面があるのが当然で、お互いにどれだけ相手のことをわかり合っているかが大事だと思ひます。相手のことをわかつていれば、相手に対してイライラすることも減り、話をすればきっと仲良くなれると思ひます。若い人たちもお年寄りのことを知らないから関わりたくないと思つてしまふし、相手のことを知らずに、無意識のうちに勝手に決めつけ、嫌な人間になる人も少なくありません。